

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090200177		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ松本筑摩		
所在地	長野県松本市筑摩2丁目3番22号		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090200177&amp;SCD=370">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090200177&amp;SCD=370</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方1人ひとりが、その人らしく毎日の生活を送り、安全に楽しく過ごして頂けるようサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニチイのほほえみ松本筑摩は、全国でトータル介護サービスを展開するニチイ学館を母体組織に持ち、平成22年3月に通所介護施設に隣接して設立された。母体組織の理念「誠意・誇り・情熱」は職員全員に浸透し、温かく家庭的な「第2の我が家」でありたいというホームの目標を定め、実践につなげている。地区長をはじめ、民生委員、ホームのオーナーなどの理解と協力の下、地域と馴染みの関係を持つよう取り組みが始められている。また、法人による研修や学びの機会が確保され、職員の育成とサービスの質の確保と向上をめざしている。開設後で経験は浅いが、利用者とその家族のニーズを汲み取りながら重度化の指針を作成し、事業所が対応しうる最大のケアについて模索中である。ホールでは、職員と利用者が笑顔で歌いながら体を動かし、共に過ごし支えあう和やかな様子がうかがえた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( 1F )		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名( 2F )			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の経営理念を会議などで定期的に唱和を行い、その理念に基づいたホームの目標を立て、その目標に向け業務に努めている。	母体法人の社是「誠意・誇り・除湯熱」を事務所に掲げ、定期的に唱和するとともに、ホームが第2の我が家になるようにという目標を掲げ、実践につなげている。	理念は、事業所がめざすサービスのあり方を示したものである。母体組織の理念そのままではなく、地域密着型の意義や役割を考え、実践につながるようなホーム独自の理念を、職員全員で話し合い作られることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントなどに参加し地域の方との交流を行っている。又散歩や外出の機会を多く作りその際ご近所の方と交流を図っている。	管理者は、地域密着型サービスの意義を理解し、地域との接点を持てるよう地区長への働きかけを行なっている。今後は行事へのお誘いなど、開かれた事業所に向け取り組まれる旨をうかがった。	「暮らし」は事業所の中だけで完結するのではなく、日常的な地域との相互関係で成り立っている。今後は、事業所の活動を回覧板に掲載したり、文化祭などの地区行事への参加やホームの行事へのお誘い、小中学生との交流、介護予防教室の開催など、近隣の一員となるような関わりを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援方法を行事の参加や交流により、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で状況報告したことに対する意見を活かし、ホームでの話し合いを行いサービスのさらなる向上に努めている。	運営推進会議は、利用者家族、地区長、民生委員、地域包括職員の他にも協力医や訪問看護師へも参加を呼びかけ、2ヶ月に一度開かれ、入居者の状況報告やホームの活動報告がされていた。また、同時に家族会も開催されている。	運営推進会議は、地域や行政の理解と支援を得るための重要な会議である。懸案事項の話し合いや現状報告のほか、避難訓練や行事にあわせて開催するなど、利用者の状況やケアの現状の理解と協力を得られるような取り組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を日頃から取り、情報の交換や相談など協力関係を築くよう努めている。	必要時には、福祉課の担当者と電話連絡を行なう旨をうかがった。運営推進会議へは包括支援センター職員の出席はあるものの、福祉課職員との交流は行われていない。	市は、介護保険の保険者であり、福祉の推進役として最前線の立場にあるため、現場でのケアの実態を担当者に理解してもらうことは重要と思われる。市職員への研修場所としての場所提供など、交流と連携に取り組まれることを期待する。

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に会議などで研修会を行い職員全員が身体拘束について理解を深め身体拘束を行わないケアに努めている。	勉強会や研修を通じ、職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組まれている。開設後間もないため、離設防止の為に玄関の施錠がされていた。	利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援することが大切である。利用者が外に出たくなる場面や理由を検討し、施錠の時間帯を減らしていくような見守りの徹底と工夫を望む。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会の機軸を作り、虐待についての理解を深め、虐待のないサービスや日々の業務の中で虐待が見過ごされることがないように努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者いないため、日常生活自立支援事業、成年後見制度について今後勉強会の機会を持ち、今後活用できるよう取り組んでいきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、十分な説明を行い質問なども受け安心して納得して契約が行われるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見、要望を聞ける環境作りや場を作るよう努めている。又運営推進会議にても意見交換の場を持ち、運営の向上につながるよう努めている。	運営推進会議の開催時に家族会を開くなど、家族が意見や要望を表出しやすいような機会作りに取り組まれていた。今後、ホーム便りを発行するなど、行事や日頃の様子をきめ細かく伝えられるよう取り組まれていく予定であることをうかがった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や日常的にも職員から意見や提案を聞き反映できるよう努めている。また職員が意見などをいいやす環境作りをしている。	月に一度のホーム会議やユニット会議では、職員の意見やアイデアが出され、運営に活かされている。個別面談のほか、日頃からのコミュニケーションが図られている様子がうかがえた。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ制度、個人面談の実施や日頃の会話の中で各自が向上心持って働けるよう現場環境・条件の整備に努めている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に開かれる研修会や講義の参加を促している。又職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを進め、育成に努めている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図りその会話の中から本人が感じている不安や意見を聞き入れ安心をするための関係づくりに努めている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の見学、事前の面談等家族との話し合いの時間を多く持ち、その中から不安や要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族からの要望を聞きながら、その時必要としているサービスであれば、他のサービス利用を提案している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの様子をみてできるところはできるだけやって頂き、協力し合い共に暮らしていくための関係を築いていけるよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られるような環境・関係作りをし、面会に来られた際は家族と本人の時間を大切にして頂けるよう環境づくりに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ本人と関わる多くの方に面会に来て頂けるような環境づくりを行い、必要に応じて家族に外出の相談を行っている。	利用者がこれまで培ってきた人間関係を断ち切らないよう、ホームに友人、知人が訪問できるよう支援されている様子うかがえた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で入居者の方一人ひとりが協力しあって生活が行えるよう、コミュニケーションの援助を行い、その中で関係づくりができるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了後も家族からの相談等があればこれまでの関係性を大切にし援助を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をコミュニケーションの中から把握し、困難な場合は定期的な会議で話し合いを行い検討している。	職員は、利用者が言葉にすらい思いは日々の行動や表情から汲み取るよう、一人ひとりその時々での思いの把握に努められていた。困難な場合は、家族から情報を得たりミーティング等で話し合うなど、本人の視点に立って検討されていた。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの話や本人昔の話、思い出などを聞き、センター方式の記録を行い、経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活状況、心身の状態を記録にし現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の課題について定期的にカンファレンスを行い、関係者からの意見やアイデアを反映させた介護計画書を作成している。	本人、家族の要望や状況をもとに、ミーティング等で職員全員で話し合いながら計画作成担当者が作成している。定期的な見直しと、モニタリングに基づき現状に即した対応のできる計画 となるよう取り組まれていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの様子を日々介護記録へ記入し職員間で情報を共有しながら、介護記録の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズを、1つの考えに捉われず、色々な意見を聞くことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が地域の中で安全で楽しく暮らしを送ることができるよう支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。</p>	<p>事業所の協力医は、地域医療や終末期医療への理解があり、往診のほか休日の電話対応などホームからの相談には柔軟に対応され、利用者と家族の安心に繋がっている。また、本人と家族の希望するかかりつけ医に受診できるような支援も行なわれている旨うかがった。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎月4回の訪問看護により入居者一人ひとりの、体調や状態の変化など情報交換を行い、適切な受診、看護が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院の際は病院関係者との情報交換や相談に努めている。又そうした場合に備えて病院関係者との関係作りに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族との話し合いの中で方針を共有し、関係者と共に本人や家族が望む終末期の生活を送れるよう支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期の指針が定められており、利用者や家族の意向を汲み取りながら、希望に副えるよう対応する旨をうかがった。開設1年で経験が浅く、入居者のニーズも少ないため、具体的な取り組みは今後の課題である。</p>	<p>終末期の対応のあり方は、利用者と家族の不安のひとつである。今後、利用者の高齢化、重度化に備え、ターミナルケアの具体的な支援方法や医療連携体制の充実、看取り後のスタッフや他の利用者の心理面への影響など、研修や検討を重ね、体制を整えられることを望む。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に急変や事故発生時に備えて講習会、訓練を行い実践力を身に付けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施。地域の方との情報交換を行うことにより、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の協力の下、昨年は2回の防災訓練が行われた。また、地域での防災訓練に参加したり運営推進会議で話し合うなど、地域との協力体制を築くような取り組みがされていた。</p>	<p>火災ばかりでなく、地震、水害、大雪などの様々な災害が想定される。また現在歩行可能な利用者も、高齢化と重度化が予測され、職員だけの誘導には限界があると思われる。今後更に地域住民や消防団に協力を呼びかけ、またホーム独自での訓練を繰り返すことにより、具体的な支援方法を整備されることを望む。</p>



外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、声のかけかたを選び対応をしている。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は尊厳を大切にされたケアをされている。利用者の心情を察し、目立たずさりげない言葉掛けや対応に配慮されている様子がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことのできるような声かけや、促しを行い自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日一日を希望に添ってその人らしい生活が送れるよう支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が身だしなみやおしゃれに対しての意欲がなくなるような声かけや環境づくりに努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事を楽しく、役割を持って頂けるよう支援を行っている。	食事の準備や片付けは、その日の様子を見ながらできることをお願いするなど、利用者の自信や力の維持に繋がるよう支援されていた。法人の方針もあり、入居者が食事をする間職員はサポートを行ない、一緒に同じ食事を楽しむ取り組みはされていない。	地域密着型サービスの暮らしの場面として、買い物、調理、食事、後片付けなどを利用者と職員が一緒に行なうことは重要である。食材料費の負担や休憩時間の兼ね合いが課題となる場合もあるが、利用者と同じテーブルを囲み同じ食事を楽しめるような環境作りへの取り組みを期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調の状態や習慣に応じ、一日に必要な栄養バランス、水分量が確保できるように努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの実施し、口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりトイレでの排泄が行えるよう、その方に合ったトイレ誘導、声かけなどの支援を行っている。	トイレでの排泄やおムツをしないですむ暮らしの重要性を職員は認識し、一人ひとりの習慣やパターンに応じた個別の排泄支援に努められていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、バランスの摂れた食事や水分の摂取に努め、毎日の運動の機会により便秘の予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせて、個々に添った支援を行い、入浴の時間を楽しんで頂けるよう努めている。	入浴は、その時々希望を大切にされた支援がされていた。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、くつろいだ気分で入浴できるよう、声掛けや対応を工夫されている旨をうかがった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に合わせた休息ができ、安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を全職員が理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や習慣を活かした役割を見つけ張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方に協力をしてもらいながら、本人の希望に添って外出の機会が持てるよう支援を行っている。	外出は利用者がその人らしく暮らし続けるために重要であることを職員は認識し、天気の良い日には利用者の希望とペースにあわせてホーム周辺を散歩できるよう努められている。	戸外で気持ちよく生き生きと過ごせることは、ストレスの発散につながる。今後更に、ボランティアや地域住民の協力を得て、本人の習慣、有する力、希望、季節などに応じ、本人に合わせた移動の配慮をしながら外出を支援していくことが望まれる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理を行っているが、希望があればお金を使えるように支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や友人などに連絡や手紙のやり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節に合わせて模様替えを行い、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激がなく居心地よく過ごせるよう努めている。	ホールには観葉植物や生花が飾られ、利用者の作成した折り紙が展示されたり、行事の写真が飾られていた。装飾品の刺激が利用者にとってストレスにならないよう、気遣いながら暮らしの場が整えられていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方が一日の中で一人になれたり、仲間との時間を過ごしたりと思い思いに過ごせるよう、居場所の工夫を行っている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族と相談を行い、使い慣れたものや馴染みのあるものを置き、今まで住み慣れた環境に近い空間で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室はプライバシーを保てる個室であり、タンス、テーブル、植物、写真、遺影など、本人がその人らしく過ごせるよう工夫されていた。居室担当者を決めるなど、本人が落ち着いて過ごされ、居心地の良い空間になるような対応がされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし、出来ることやわかることを安全に行え、自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社としての経営理念の唱和をスタッフが定期的に行い、理念の実現のために独自の目標も掲げ、常に意識し実践するようにしている。	母体法人の社是「誠意・誇り・除湯熱」を事務所に掲げ、定期的に唱和するとともに、ホームが第2の我が家になるようにという目標を掲げ、実践につなげている。	理念は、事業所がめざすサービスのあり方を示したものである。母体組織の理念そのままではなく、地域密着型の意義や役割を考え、実践につながるようなホーム独自の理念を、職員全員で話し合い作られることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事等へも出来るだけ参加している。また、日々の散歩等の機会が地域の方々との交流となっている。	管理者は、地域密着型サービスの意義を理解し、地域との接点を持てるよう地区長への働きかけを行なっている。今後は行事へのお誘いなど、開かれた事業所に向け取り組まれる旨をうかがった。	「暮らし」は事業所の中だけで完結するのではなく、日常的な地域との相互関係で成り立っている。今後は、事業所の活動を回覧板に掲載したり、文化祭などの地区行事への参加やホームの行事へのお誘い、小中学生との交流、介護予防教室の開催など、近隣の一員となるような関わりを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての取り組んでいることを地域の方々にも向けて発信していけるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、取り組み状況の報告に対する意見をいただき、サービスの向上のために活かしている。	運営推進会議は、利用者家族、地区長、民生委員、地域包括職員の他にも協力医や訪問看護師へも参加を呼びかけ、2ヶ月に一度開かれ、入居者の状況報告やホームの活動報告がされていた。また、同時に家族会も開催されている。	運営推進会議は、地域や行政の理解と支援を得るための重要な会議である。懸案事項の話し合いや現状報告のほか、避難訓練や行事にあわせて開催するなど、利用者の状況やケアの現状の理解と協力を得られるような取り組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、担当行政との関係を密にし、協力関係を築けるよう努めている。	必要時には、福祉課の担当者と電話連絡を行なう旨をうかがった。運営推進会議へは包括支援センター職員の出席はあるものの、福祉課職員との交流は行われていない。	市は、介護保険の保険者であり、福祉の推進役として最前線の立場にあるため、現場でのケアの実態を担当者に理解してもらうことは重要と思われる。市職員への研修場所としての場所提供など、交流と連携に取り組まれることを期待する。

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルや研修の実施で理解を深め、身体拘束の必要のないケアに努めている。	勉強会や研修を通じ、職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に取り組まれている。開設後間もないため、離設防止の為に玄関の施錠がされていた。	利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援することが大切である。利用者が外に出たくなる場面や理由を検討し、施錠の時間帯を減らしていくような見守りの徹底と工夫を望む。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルや研修を活用し虐待の無いサービスに努めるとともに、見過ごすことなく相談できる環境であるように努めたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する制度について理解を深め、必要な時に活用できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には十分に時間をとり、入居者・家族が納得して締結が行えるよう説明し質問等も受けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に気軽に意見・要望が言える環境や関係作りに努めている。 運営推進会議での質疑・応答や、会社としてのコールセンター等も設けている。	運営推進会議の開催時に家族会を開くなど、家族が意見や要望を表出しやすいような機会作りに取り組まれていた。今後、ホーム便りを発行するなど、行事や日頃の様子をきめ細かく伝えられるよう取り組まれていく予定であることをうかがった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内の会議等で職員の意見や提案を聞き、より良い運営のために反映させている。	月に一度のホーム会議やユニット会議では、職員の意見やアイデアが出され、運営に活かされている。個別面談のほか、日頃からのコミュニケーションが図られている様子がうかがえた。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の規定するスキルアップ制度もあり、各自が向上心を持って働けるように職場環境の整備にも努めている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社主催のものや地域での研修会や講習会に参加を促すと共に、職員一人ひとりの力量を考慮し、育成に努めている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会に参加し同業者との交流の機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションに重点を置き、ご本人の抱える不安や訴えを汲み取り、それを取り除けるような関係作りに努めている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱える不安や困っていることを訴えていただけるような関係作りに努め、安心して任せいただけるように努めている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況の相談を受けた時点で、家族や本人にとって望ましいサービスを選択できるように支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を生活していく中で発揮していただき、共同生活を共に過ごす立場としての関係が出来るように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会や行事などを共に行っていただけの機会をたくさん持っていただき、家族の絆を大切にしながら共に支えるものとしての関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の訪問者(友人やご近所の方)でも気軽に足を運べる環境作りに努めている。	利用者がこれまで培ってきた人間関係を断ち切らないよう、ホームに友人、知人が訪問できるよう支援されている様子うかがえた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や考え方を知り、お互いが支えあって生活できるような環境を作れるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談に対応できるように努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの方の思いや望む暮らし方をコミュニケーションや今までの生活の中から汲み取り、把握に努め、会議等を利用しスタッフ間の統一を図るよう努めている。	職員は、利用者が言葉にしやすい思いは日々の行動や表情から汲み取るよう、一人ひとりその時々での思いの把握に努められていた。困難な場合は、家族から情報を得たりミーティング等で話し合うなど、本人の視点に立って検討されていた。	



外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、本人から得られる情報をセンター方式を利用してアセスメントし、その方の望む生活に近づけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や心身の状況を観察し、センター方式を活用し把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を持ち、それぞれの関係者の情報や意見をふまえてモニタリングを行い介護計画書に反映させている。	本人、家族の要望や状況をもとに、ミーティング等で職員全員で話し合いながら計画作成担当者が作成している。定期的な見直しと、モニタリングに基づき現状に即した対応のできる計画 となるよう取り組まれていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状態や1日の過ごし方などを細かく介護記録として記録することにより、その方を把握するための情報をスタッフ間で共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、サービス担当者会議や日々のかかわりの中からその人にとって必要な支援を柔軟に行えるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の身近な地域資源を把握し、地域の中での生活を本人が楽しめるように支援する。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が納得した医療が受けられるよう常に相談しながら支援し、かかりつけ医と事業所の関係もよりよいものとなるよう努めている。	事業所の協力医は、地域医療や終末期医療への理解があり、往診のほか休日の電話対応などホームからの相談には柔軟に対応され、利用者と家族の安心に繋がっている。また、本人と家族の希望するかかりつけ医に受診できるような支援も行なわれている旨うかがった。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回の訪問看護の関わりにより、日々の健康に関する相談や情報交換に努め、適切な受診や看護を受けられるように支援する。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者との連絡を密にし、カンファレンスに参加したり、相談や情報の交換を行い利用者がスムーズにもとの生活に戻れるよう支援する。日頃から病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向や方針について早い段階より共有しながら、望む終末期が送れる環境を作れるように支援する。	終末期の指針が定められており、利用者と家族の意向を汲み取りながら、希望に副えるよう対応する旨をうかがった。開設1年で経験が浅く、入居者のニーズも少ないため、具体的な取り組みは今後の課題である。	終末期の対応のあり方は、利用者と家族の不安のひとつである。今後、利用者の高齢化、重度化に備え、ターミナルケアの具体的な支援方法や医療連携体制の充実、看取り後のスタッフや他の利用者の心理面への影響など、研修や検討を重ね、体制を整えられることを望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの理解や定期的な研修・訓練・勉強会により、必要な時に早急な対応が行えるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、年2回の専門家も参加による訓練も実施している。スタッフの動きや地域との連携に関しても体制の構築に努めている。	消防署の協力の下、昨年は2回の防災訓練が行われた。また、地域での防災訓練に参加したり運営推進会議で話し合うなど、地域との協力体制を築くような取り組みがされていた。	火災ばかりでなく、地震、水害、大雪などの様々な災害が想定される。また現在歩行可能な利用者も、高齢化と重度化が予測され、職員だけの誘導には限界があると思われる。今後更に地域住民や消防団に協力を呼びかけ、またホーム独自での訓練を繰り返すことにより、具体的な支援方法を整備されることを望む。

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いや生きてきた歴史や人格などを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	プライバシーの保護と人格の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は尊厳を大切にしたケアをされている。利用者の心情を察し、目立たずさりげない言葉掛けや対応に配慮されている様子がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや望むことを表出できる環境作りや、自己決定が出来るような働きかけを行うよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の過ごし方を大切にし、その人らしく生活できるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室と共同スペースとの違いや外出・散歩などその時々でその人らしさを尊重し、おしゃれに対する意欲も持ち続けられるように支援する。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な部分を活かして、調理から片付けまでの過程にそれぞれが役割を持って参加し、楽しいもの出来るよう支援する。	食事の準備や片付けは、その日の様子を見ながらできることをお願いするなど、利用者の自信や力の維持に繋がるよう支援されていた。法人の方針もあり、入居者が食事をする間職員はサポートを行ない、一緒に同じ食事を楽しむ取り組みはされていない。	地域密着型サービスの暮らしの場面として、買い物、調理、食事、後片付けなどを利用者と職員が一緒に行なうことは重要である。食材料費の負担や休憩時間の兼ね合いが課題となる場合もあるが、利用者と同じテーブルを囲み同じ食事を楽しめるような環境作りへの取り組みを期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの方に必要な栄養・水分が十分取れるように支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの方に合った方法で口腔ケアが行えるよう必要な声かけ・介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、その人に合わせた声かけ・誘導・介助を行い、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄やおむつをしないですむ暮らしの重要性を職員は認識し、一人ひとりの習慣やパターンに応じた個別の排泄支援に努められていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事、必要な水分摂取、適度な運動を行い、自然排便に努めているが、必要に応じ薬の使用も考慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの都合で決めることなく、本人の体調や希望・タイミングにあわせて、気持ちよく入浴できるよう配慮している。	入浴は、その時々希望を大切にされた支援がされていた。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、くつろいだ気分で入浴できるよう、声掛けや対応を工夫されている旨をうかがった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を大切にし、必要な量・良質な眠りが取れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、必要性、副作用、用法、用量をスタッフ全員が理解し、指示通りに内服できるよう支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の持っている力を生活歴や今までの趣味などから見つけ、生活の中に役割を持ち、張り合いや喜びのある日々になるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の協力も得ながら、出来るだけその方の希望に沿った外出の機会を作れるように支援する。	外出は利用者がその人らしく暮らし続けるために重要であることを職員は認識し、天気の良い日には利用者の希望とペースにあわせてホーム周辺を散歩できるよう努められている。	戸外で気持ちよく生き生きと過ごせることは、ストレスの発散につながる。今後更に、ボランティアや地域住民の協力を得て、本人の習慣、有する力、希望、季節などに応じ、本人に合わせた移動の配慮をしながら外出を支援していくことが望まれる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事務所でやっているが、本人の希望により使用できるように配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や意向に応じ、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な原因となるものは出来るだけ排除し、季節や気候を感じられる飾りなども取り入れ、居心地の良い空間となるよう努めている。	ホールには観葉植物や生花が飾られ、利用者の作成した折り紙が展示されたり、行事の写真が飾られていた。装飾品の刺激が利用者にとってストレスにならないよう、気遣いながら暮らしの場が整えられていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が自分に合った空間を見つけ、その人らしく過ごせるような環境作りに努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、馴染みのものを置いていただき、その人が安心して心地よく過ごせるように努めている。	居室はプライバシーを保てる個室であり、タンス、テーブル、植物、写真、遺影など、本人がその人らしく過ごせるよう工夫されていた。居室担当者を決めるなど、本人が落ち着いて過ごされ、居心地の良い空間になるような対応がされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来ることや分かることを出来るだけ継続して行い、自立した生活が送れるような環境作りに努めている。		